

## 修理工事こぼれ話③⑧ 能因法師の和歌

楼門には様々な墨書が残されています。造営時に限ってみても、部材の設置箇所を示した番付（ばんづけ）や、造営に関わった職人さんや関係者の名前など、多種多様です。その中には、歌が書かれたものがいくつかありました。今回はそのうちのひとつを紹介いたします。

### 1. 卷斗の墨書に書かれた和歌

寺社建築には組物（くみもの）と呼ばれる部分があります。組物は、肘木（ひじき）と呼ばれる部材と斗（ます）と呼ばれる部材で構成されています。斗の中には卷斗（まきと）と呼ばれるものがあり、楼門下層の卷斗の一つに和歌が書かれていました（「修理工事こぼれ話⑦」）。

内容は、「嵐吹（く） 三室の山の 紅葉は（もみぢ葉）は たつたの川の 錦なりけり」という和歌で、能因法師（988～?）という人物の作品です。元々は、『後拾遺和歌集』という平安時代の勅撰和歌集に収録された和歌であり、のちに小倉百人一首にも撰ばれています。

ちなみに、参考文献によると、永承4年（1049）11月9日に後冷泉天皇主催で行われた、内裏の歌合で詠まれた和歌だそうです。「三室の山」と「竜田の川」（ともに現在の奈良県）という古来より紅葉の名所であった2つの地名を取り入れた歌となっています。

話は戻り、卷斗の墨書は、造営時に大工さんが書いたものと思われます。このような墨書が残されているだけでもとても興味深いですが、なぜこの墨書を書いた大工さんは、この和歌を知っていたのでしょうか。

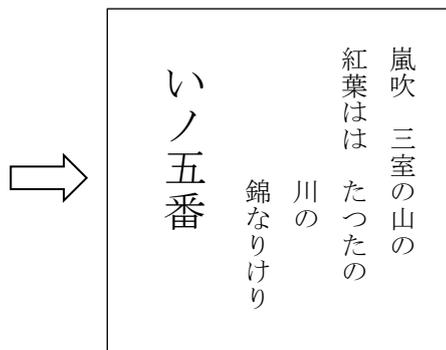


楼門下層卷斗 下面の墨書

右側が和歌で、左側は番付「いノ五番」です。



楼門下層 和歌が書かれた卷斗  
下面に和歌が書かれています。



## 2. 宇城市の歌碑

ある日、インターネットでこの和歌について調べてみたところ、熊本県宇城市内にこの和歌の歌碑があることがわかりました。

不知火町小曾部に所在する歌碑で、現在は宇城市指定の文化財となっています。宇城市のホームページによると、高さ 1.2m、幅 0.3m ほどの板状砂岩で、高さ 1.5m、幅 2m ほどの基壇の上に立っており、造立者は西光院という寺院（現在の熊本県宇土市）の仰誉上人という人物であるとのこと。宇土市にこの仰誉上人と同一と思われる人物が宝永 4 年（1707）造立した石造物があるので、宇城市の歌碑も西暦 1700 年前後に造立されたものであると思われます。

この和歌の作者である能因法師は、肥後進士を称したり、父が肥後守であったりしたことから、少なからず肥後国（現在の熊本県）と縁があった方々の方のようです。仰誉上人もそのことを知っていたからこそこの歌碑を造立したのかもしれませんが。



宇城市の歌碑・基壇 全景

基壇左の石碑は、旧不知火町によって立てられた石碑です。



宇城市の歌碑 和歌が彫られた箇所

だいぶ風化が進んでいます。



宇城市の歌碑 全景

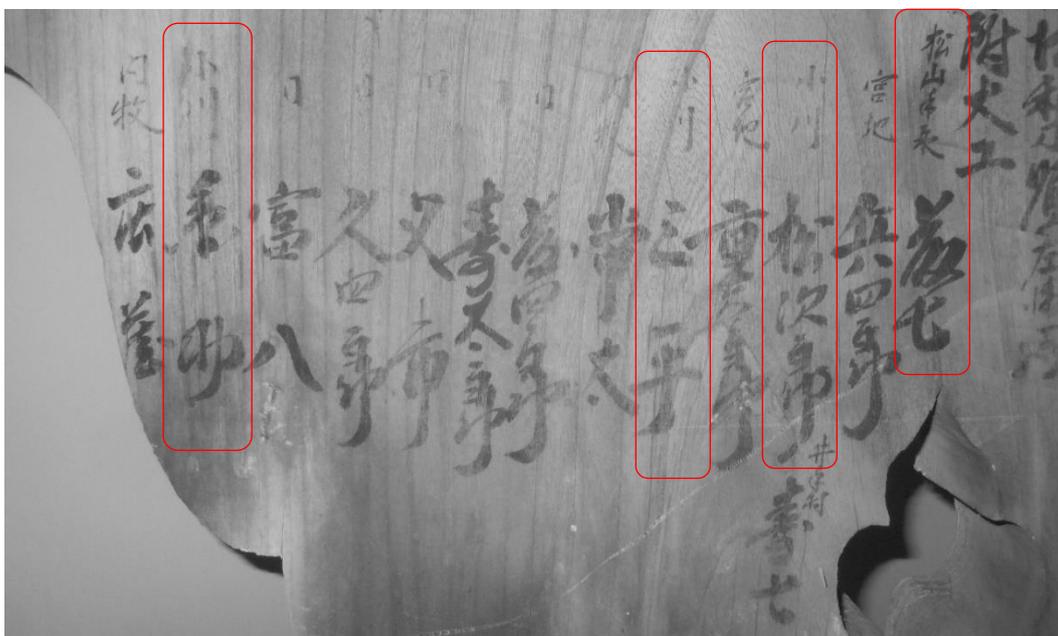
上部に和歌、中央に「能因法師」、下部におそらく「西光院 仰誉上人」などと書かれているようです。

### 3. 墨書を書いた大工さんの考察

先述の歌碑が実際に西暦 1700 年前後に造立されたならば、阿蘇神社楼門が造営された天保 14～嘉永 3 年（1843～1850）には既に存在していたことになります。あくまで推測ですが、この和歌の墨書を書いた大工さんはこの歌碑を見たことがあったという可能性は考えられないでしょうか。

楼門造営に参加した大工さんのうち、棟梁水民元吉を含む 3 人が小川町（現在の宇城市）出身で、1 人が大見村（現在の宇城市）出身です。ともにこの歌碑から 10km ほどの場所にある町村ですので、見に行くことは可能だと思います。もし、この歌碑を見て歌の墨書を書いたのであったならば、この 4 人が書いた可能性が高いといえるでしょう。

実際の当否は不明ですが、現在の宇城市の地域は、何かしらの方法でこの和歌について知ることができる地域であり、その影響が離れた地域にある阿蘇神社楼門の墨書に表れた、ということなのかもしれません。



楼門上層懸魚 裏面の墨書

大工棟梁のもとで楼門造営に関わった大工さんの名前と出身地が書かれている箇所です。赤線で囲った大工さんが、小川町・大見村（松山手永）出身です。

（この墨書ですと松山手永と書かれていますが、他の墨書では「松山手永大見村」と書かれていますので、このコラムでも大見村として扱っています。）

参考文献 鈴木日出男・山口慎一・依田泰『原色 小倉百人一首』文英堂、1997  
「能因法師歌碑・宇城市」<https://www.city.uki.kumamoto.jp/q/aview/244/417.html>

最後に私事ですが、この度転勤することになり阿蘇を離れることになりました。地震のあった平成 28 年（2016）9 月に阿蘇神社の現場に赴任してから 4 年と 1 カ月が過ぎ、その間に「修理工事こぼれ話」も 38 回連載することができました。今までご清覧いただき誠にありがとうございました。

阿蘇神社の修理工事は、残り 3 年 3 カ月を予定しています。これからも情報発信していくことになると思いますので、どのような工事が行われ、どのようなことが判明していくか、楽しみにしていただければ幸いです。（石田 陽是）